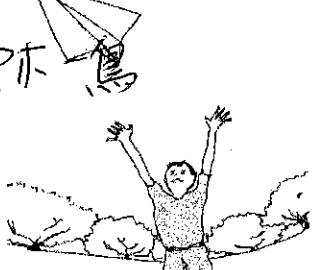


まじめ！ 徒々号です。私は日々の実践の中で、小学へ毎月最初に挨拶を実習へ出掛けます。子供達が挨拶に慣れてないかと思つて行きました。

今週の倫理 933号 6年になつて、お手本となる挨拶 2015.7.11 ~ 7.17

この月のテーマ
通路はどうに

挨拶の見本は 社長が示す



え・古屋智子

な

かなか業績が上向かない。
いわゆる「頭打ち」で、今

後伸びていく兆しがない。経営状態は安定していても、将来への漠然とした不安を持つている。

このような時、どこに活路を見いだすのか。その道は、小さなことにあります。当たり前のようないいことをコツコツと続けて、実践を積み重ねていくことが大切です。

その小さなこととは、例えば、「真心を込めて先手の挨拶をする」「呼ばれたら間髪入れずに『ハイ』と返事をする」「使った物はきちんと後始末をする」といったようなことです。一見、当たり前に思えることを徹底して実践することで、やがて大きな力を發揮するのです。

Eさんは、従業員の挨拶の仕方が気になって仕方がありません。たとえば、「おはようございます」「おぞーす！」、「ありがとうございます」などは、「あざしたー！」といつた具合です。

研修会が終わった後、講師に従業員の挨拶の仕方について相談したEさん。その際、「Eさん自身はどのような挨拶をしていますか？」と問われ、ハツと我が身を振り返りました。朝、従業員が自分に挨拶してくると、「オース！」と返していたのです。

「挨拶のポイントは、真心を込め

体力が物を言う仕事柄、採用する従業員は、いわゆる体育会系の部活動をしていた人がほとんどです。「部活の時はそれで良いが、もう社会人なんだから、挨拶の仕方を考えなさい」といくら注意しても、長年の挨拶の習慣はなかなか改まりません。

〈元気があるから、まあいいか〉と、心の中で妥協していたEさんでした。

ある日の研修会で「挨拶の実践で会社が変わった」という社長の体験談を聞く機会がありました。〈たかが挨拶くらいで…〉と思いつながらも、Eさんは、その体験談に、どこか引き込まれるものを感じました。

研修会が終わった後、講師に従

業員の挨拶の仕方に変化が現れたEさん。その際、「Eさん自身はどのような挨拶をしていますか？」と問われ、ハツと我が身を振り返りました。朝、従業員が自分に挨拶してくると、「オース！」と返していたのです。

その変化に、Eさんは「たかが

挨拶、されど挨拶。毎日の小さな積み重ねが、大きな変化をもたらすのですね」と、挨拶の威力を痛感しています。

純粹倫理の学びは、頭で理解し

て終わりではなく、実践するところに意義があるのです。

て、先手で挨拶することです。社長から先に、正しい挨拶のお手本を示してください」と、講師にアドバイスを受けました。